

# 二十四節気と冬の遊び

仙台市博物館 学芸普及室 飯淵 泉

第10回

## 二十四節気

冬至を迎え、寒さも一段と厳しくなってきました。この冬至は一年を二十四等分し、季節を表す区分として日々の暮らしに用いられてきた「二十四節気」の一つです。二十四節気にはこのほか立春、大暑、白露など、一つひとつに季節の節目を表す名称がついています。

また、季節や自然に関わる習わしとして、例えば、冬至には冬至カボチャを食べる、ゆず湯に入るなどがあります。

このほかにも、春は草花遊び、夏はセミなどの虫取り、秋は栗拾いなど、昔からある遊びからも季節を感じ取ることが出来ます。

日々のなりわいから習わし、遊びまで、人々の暮らしはこうした季節の移ろいとともに関わられてきたのです。

## 冬の遊びといえは

さて、冬の遊びといえは皆さんは何を思い浮かべるでしょうか。

スキー、雪合戦、雪だるまづくりなど冬ならではの遊び、あるいは、こま回し、たこ揚げ、福笑い、かるたなど

の伝統的な正月の遊びもあります。

また、今でこそ遊び道具は既製品が主流ですが、昔はほとんどが手作りでした。こまやたこなどはもちろん、太い孟宗竹を二つに割ってつくったスキーや、竹を短く切って二つに割り、長靴の底に結び付けた竹スケート、下駄の歯を取り、金具を付けた下駄スケートなどがありました(写真)。

## 仙台でのスケート

冬の遊びの一つであるスケートは、昔は凍った沼や池で楽しまれていました。仙台市博物館の北側にある五色沼(青葉区川内)では、明治三十年代からすでにフィギュアスケートが行われていたようです。明治四十年(一九〇七)前後には、五色沼でイギリス人宣教師たちがフィギュアスケートをしている姿に魅了された第二高等学校(旧制二高)の生徒たちがスケートを始め、ドイツ語教官ヴェルフェルに手ほどきを受けたといわれています。

その後、スケートは競技にまで発展しました。市民のスケート競技への関心は高く、大正十一年(一九二二)に

広瀬川大橋下で行われた競技会では、日本で初めて本格的にフィギュア競技が実施され、千人を超える大観衆が集まったといわれています。そのほかにもパン食い競争など様々な競技が行われました。後に五色沼のほか、与兵衛沼(宮城野区蟹沢)などがスケートリンクとして整備され、仙台にスケートが普及していきました。羽生結弦さんをはじめ、仙台から多くのフィギュアスケート選手が生まれているのは、このゆえんからなのかもしれません。



写真 下駄スケート(仙台市歴史民俗資料館蔵)

## 仙台市史 全32巻

原始から平成元年までの仙台の歴史をわかりやすく紹介!

「通史編」のほか、古代から現代までの歴史資料で構成される「資料編」、特定のテーマを詳しく掘り下げた「特別編」、「年表・索引」があります。

### ピックアップ紹介



### 特別編4 市民生活

B5判/オールカラー/574ページ 6,285円(税込)  
付録:「市街地(旧仙台城下)の旧町名・通名」地図など2点  
明治時代以降の仙台の暮らしのあゆみを、コラム形式で解説。上記で取り上げた遊びのほか、映画や芝居など様々な娯楽についても紹介しています。



既刊紹介や購入方法は博物館ホームページでご案内しています。

仙台市博物館 SENDAI CITY MUSEUM

▶博物館ホームページ ▶博物館ツイッター

仙台市博物館 検索 @sendai\_shihaku

▶お問い合わせ

〒980-0862 仙台市青葉区川内26番地(仙台城三の丸跡)  
TEL:022-225-3074 8:30-17:15 ※土・日・祝休日・年末年始(12/28~1/3)を除く

※当館は現在、大規模改修工事のため休館しています。令和6年4月に再開予定です。